新たな国土形成計画の構造

国土交通省

資料2－1

策定に当たっての考え方（機軸）

- 1 国土における人々の活動の在り方
- 2 ステークホルダーの連携・協働
- 3 デジタルの実装
- 3 必要なリアルの確保
- 4 かき根を越える（役割を兼ねる、同じ仕組みを使う）
- 5 具体的目標 具体的役割
- 6 臨機応変、定期確認、見直し

計画の長期性

長期的な方向：2050年を見据える

- 普遍性
- 7 課題によっては将来さらに考えなければならないことがある

基本理念

①自立的に発展する地域社会
②活力ある経済社会
③安全が確保された国民生活
④地球環境の保全にも寄与

国土像

※「対流促進型国土」「コンパクト＋ネットワーク」「一極集中是正」「国土の均衡ある発展」「多軸型国土構造」等の今日的位置付け

政策の方向性

達成された社会の国土像

- 3 デジタル田園都市国家構想
  ・デジタルによる補完・補強
  ・必要なリアルは確保
- カーボンニュートラル（2050年）

地方で暮らし続ける意義（多様性、一極集中是正）

地域経営の発想

ローカルの視点

1、2、4、5、7

〇機能の維持確保（課題の解決）：地域生活圏
・地域生活圏は地域経営を具体化する道具の概念
・全てのステークホルダーの取組（連携・協働、役割分担、かき根越え）
・空間的な範囲の目安

グローバルの視点

- 産業の国際的競争力（地域発グローバル産業・イノベーション）
- 大都市の国際競争力 東京一極集中是正（大都市の持続性（介護・災害脆弱性））

スーパー・メガリーション（連携・交流による新たな価値創造）

特に

共通の視点：

- 人材の確保・育成
  - 関係人口
  - 女性活躍
- 適正な国土利用
  - 地域管理構想
- 防災・減災、国土強靱化
  - 大規模災害
- インフラ
  - 情報通信ネットワーク
  - 交通ネットワーク